もう一つの狙い

推理小説好き

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
もう一つの狙い

【Ｎコード】
Ｎ９３１３Ｅ

【作者名】
推理小説好き

【あらすじ】
怪盗キッドからの犯行予告状が届いた！警視庁捜査二課知能犯捜査係とコナンたちが捜査を始める！ところが・・・、怪盗キッドにはもうひとつの狙いがあって・・・。コナンとキッドが送る、感動ストーリーです。

FILE1　犯行予告状

警視庁捜査二課知能犯捜査係の中森警部、毛利探偵事務所に郵便物が届いた。
それは、怪盗キッドの犯行予告だった。今回、狙われたのは、「シェリング・フォード・コイン」。
イギリスの珍しいコインだ。さっそく、暗号のような犯行予告状解読を始めた。
「４人の兵が月を見て、４人の王が太陽を見る日、霜の町に剣を封じ、葉の茂った木にナイフを隠す時、月光に浴びられ、新世紀の塔に我は参上する。」
　中森警部は、何もかもわからないらしい。
ただ、「４人の兵が月を見て、４人の王が太陽を見る日」というのは、現れる日付をあらわしていること、
「霜の町に剣を封じ、葉の茂った木にナイフを隠す時」は時刻、
「新世紀の塔」は場所を表していることは分かった。そんなこと、誰でもわかる気がするが・・・。
ただ、進展はある。「新世紀の塔」とは、５年前にできた「杯戸新世紀ビル」のことであることは分かっている。
　毛利探偵事務所でもそれぞれ、解読が始まったようだ・・・。
今回、毛利小五郎、服部平次、工藤（コナン）新一はもちろん、白馬探と離島のホームズこと、南井司も加わった。
探偵が５人も集まるわけだ。その時、毛利小五郎が閃いたように、こう言った。
「そうか！伝説だ！何かの伝説での日付を見よとでも・・・・」
「そんな伝説はありませんね・・・・。」
南井司が口をはさんだ。小五郎は、
「何！？でも、調べればあるはずだ！きっと！」

と、言っている。南井司は、厳しくこう言った。
「自分で調べてください・・・。」
「・・・・・・。」
小五郎はだまって、それから、ため息をついた。
「ここからは、各自行動をとりましょう・・・。」
そして、一応、解散となった。コナンと服部は、相談している。なぜか、司も加わっているが・・・・。
「服部、『新世紀の塔』＝杯戸新世紀ビルというのが納得できないが・・・・。」
「工藤、なぜ、納得できないのや？」
「オレは、新世紀の塔は、米花ニュータワー２１だと思う・・・。」
「確かに、２１は新世紀や。」
「それに、米花ニュータワー２１は、新世紀パーティーをやった場所だ。杯戸新世紀ビルは、新世紀の発展を願いつくられたもの。考え方にもよるが、今回の新世紀の塔は、米花ニュータワー２１をあらわしている感じがするのだ。」
「じゃあ、決まりやな！」
「捜査開始ですね！」
怪盗キッド対警視庁＆５人の探偵の戦いが始まった・・・。

FILE2　コインの謎

捜査を開始したけれど、特に人に聞くようなことはなかった。ただ、ただ、暗号文を解く、それだけだった・・・。ただ、コナンには、疑問が残っていた。

「なあ、服部、そのシェリング・フォード・コインが気にならねえか？」

「めっちゃすごいコインとテレビで言うてたな・・・。」

「それは、『シェロティアス・ホード・コイン』ですよ。」

「で？そのシェリ・・・・何とかがなんでひっかかるんや？」

「シェリング・フォード・コインは、現在の時価では、２万８０００円くらい・・・。おかしいんだよ・・・。こんなものを怪盗キッドが狙うなんて・・・・。何かもうひとつの狙いがあるかもしれねえからな・・・。」

「確かに変ですね・・・。」

「とにかく、館長のもとへ行けばいいかな・・・。」

そして、米花ニュータワー２１の博物館へ行くとびっくりしてしまった。なんと、客がひとりもいないのだ。それどころか、中には会社がほとんど入っていなくて、空いている場所がほとんどだった。館長に聞いてみると、不思議なことを言った。

「展示物４８６９ですね。」

服部がどうしてそんな名前？といわんばかりの顔で考える。

「は？」

コナンと司を分かっているようだ。

「シェリングフォードって何のことだか知っているか？服部。」

「・・・・・。」

服部は何のことだか分からないというように、首を振った。今度は司が説明した。

「シェリングフォード・ホームズといえば、お分かりでしょうか？

コナン・ドイルがシャーロックと名づけた前の名前ですよ・・・・。
」
「黒づくめの組織もそこからＡＰＴＸ４８６９の４８６９を決めたみたいです・・・。」
突然、誰だかわからない声にびっくりしたが、それは司の変声機を使ったものだったらしい。
「まあ、とりあえず、例のコインを見てみましょう。」
そして、館長から手渡されたコインを見るが、素手で特に警戒もなく行っているので、コナンの言っていた時価は合っていたようだった・・・・。
「シャーロック・ホームズとは何の関係もないんや・・・・。」
確かに、普通のコインだった。金でできているが、純度が高いというわけでもない。
柄は何もなく、ただ、十字架が彫ってあった・・・。
「十字架・・・。何か意味がありそうですね。」
「その前に犯行予告状を解読しなければならないな・・・・。」

ＦＩＬＥ２　コインの謎（後書き）

出来はまあまあです・・・。

ＦＩＬＥ３　犯行予告状の意味

３人は、毛利探偵事務所の机で考えていた。
「４人の兵が月を見て、４人の王が太陽を見る日、霜の町に剣を封じ、葉の茂った木にナイフを隠す時、月光に浴びられ、新世紀の塔に我は参上する。」
の意味を・・・。
「まず、４人の兵と４人の王は、トランプのことですね。」
「ああ・・・・。」
「紙に書くとこういうことだな。」
コナンは、紙に、「兵＝Ｊ＝１１　王＝Ｋ＝１３」と書いた。
「月と太陽の意味はもう分かりますね！」
「となると、１１月１３日や！今日は、１１月８日やから・・・・。あと、５日か・・・。」
「おかしい・・・・。なぜ、キッドはそんなに時間をとったんだ・・・。」
「まあ、細かいことは気にすんなや！」
コナンの疑問は軽くフォローされてしまった。
「霜の町に剣を封じ・・・・。この場合、霜がキーワードですね。」
「この霜って、霜月のことやないのか？となると・・・、１１・・・。」
「１１時か・・・。」
「同じように考えると・・・、葉月で８だから・・・、８分。」
「びみょーやな・・・。」
平次のその言い方がおかしかったから、２人は笑った。そして、次に注目したのは、月光に浴びられだった。
「月光に浴びられか・・・。」
「午後という証拠やな・・・。」
「つまり、キッドは１１月１３日の午後１１時８分に参上すると・・

・。」
「よっしゃ！すべてはわかったで！」
「じゃあ、次はコインの謎ですね！」
３人は勢いよく、米花ニュータワー２１へ向かった。
うすうす気付いていたのは、コナンだけかもしれない。キッドのもうひとつの狙いと、犯行予告状の「月光に浴びられ」のもう一つの意味に・・・・。

ＦＩＬＥ３　犯行予告状の意味（後書き）

展開早すぎてすみません・・・。でも、コインの謎で時間をかけるつもりです・・・。
関西弁がうまくできん・・・。はあ・・・・。

ＦＩＬＥ４　新たな暗号

キッドはそのときを待っていた。
眠りの小五郎よりも中森警部よりもコナンに期待をかけていた。
もうひとつの意味を、自分のもうひとつの狙いを分かってくれることを・・・。

そのころ、コナンたちは、コインの謎解明に向かっていた。あと犯行予告日まであと４日。
その時、司が大きな声を出した。
「こっ、これは！」
コナンと平次も司の方を向く。
「文字が刻まれています。　Ｆ３Ｉ３Ｂ２Ｆ４●Ａ２Ｂ１Ｊ５Ｃ２Ｉ４　Ｆ３Ｄ１Ｄ３Ｅ５Ｆ２●Ｉ３Ｅ５Ｆ２Ｇ２Ｄ３　Ｊ１Ｂ１Ｉ３Ｄ１●Ｉ５Ａ３　ですね・・・。」
そういうと、紙にその字を写した。ただ、この暗号はかなり難しいらしい。
「一応分かるのは、数は５までアルファベットはＩまで・・・。」
「ＡＢＣＤＥＦＧＨＩ・・・。９つの行と５つの列でできるものか・・・。」
「少なくとも、アルファベットではないことは確かやな！」
コナンも分かるのはここまでらしい。
すると、毛利探偵事務所に人が駆け込んできた。館長だった。館長は、
「あ、私の名刺渡すのを忘れていました。私の名前は、内藤です。あと、暗号文が見つかりました。これも渡しますね。私は２人の名探偵と１人の少年探偵の様子を見ています。」

と言って、いすに座った。コナンは「少年探偵」という扱いに少しむっとした様子だ。
暗号文には、コインに刻まれていた暗号と同じような感じだった。
「Ｆ１○Ｃ３Ｄ１Ｄ４●Ｇ５Ｄ１Ｆ４●Ｄ４Ａ１Ｄ１Ｇ１Ｄ４●Ｇ５Ｆ２Ｈ１Ｃ４」
と書かれてあった。その時、３人が一斉に、言った。
「分かったぞ！Ｆの正体、そして記号の意味が！」
館長がその様子を見て、少し笑った。誰にも聞こえないような小さな笑い声で。

ＦＩＬＥ４　新たな暗号（後書き）

暗号の答えは明日投稿します。
ぜひ挑戦してみてください。
ヒントは、●○とＦです。

FILE5　暗号は解けた！

「やっと分かったぜ・・・。この暗号の意味がな！」
コナンが言う。
「まず、Fは、○と●つまり、濁音と半濁音両方がつく唯一の行。
『は』行のことだったんだ！」
「Fがはだから・・・、Aがあ、Bがか・・・と続くわけですね。」
「数字はおそらく列や！たとえば・・・、Fの4やったら、はひふへ・・・でへっていうことやな！」
「この方法で解読すると・・・、第一の暗号は・・・。」
と、コナンは言いながら、紙にこう書いた。
「ふるきべいかをしれ　ふたつのビルのひみつ　わかるだろう」
それを見て、司が思いついたように、
「そういえば・・・、米花ニュータワー21（新世紀の塔）と杯戸新世紀タワーの秘密って知っています？」
「ああ・・・、杯戸新世紀タワーの何らかの裏取引で、米花ニュータワー21の客を遠ざかるようにしたことか？」
「何や・・・それ。」
「確か・・・・、南井が教えてくれたよな。なぜ知っているんだ？」
「友達から聞いた情報です・・・。」
「そうか・・・・。」
その話を聞くと、平次も納得したようにうなずいた。
「警察はそのことをつかんでいるが、深い捜査はできなかった・・・。あいつ以外はな・・・。」
「ああ・・・、警視庁の幹部がそのビルと大きな関わりがあったからだろ？」
「そうだ、中野昌一警視監のことだな・・・。」
コナンと司だけで会話をすすめていき、平次と館長は話についていけず、おろおろしていた。

「で、あいつってだれなんや？」
平次が質問する。司がこう答えた。
「警視庁捜査一課の十和剣だ。」
「十和太一なら聞いたことはあるけど・・・。」
「それは、兄のほうや。こんぐらいなら知っとるで。」
「とにかく、２つのビルのことは調べたほうがいいな・・・。」
「それはそうと、パスタ食べにいかねえか？」
「暗号の答えやからな・・・。」
そして、３人は、近くのパスタ屋、１４１２へ行った。このとき、３人は気付いたであろう。
なぜ、パスタの店へ行くが暗号の答えなのかを・・・・・・。

ＦＩＬＥ５　暗号は解けた！（後書き）

すみません。明日ということでしたが、１日延期ということになってしまいました。
２回目の暗号の答えはのせないことにします。
自分で考えてください。１回目の暗号の答えがヒントです。

さてと、早いですね。もう５話目です。
パスタの店がどういう意味か分かったかな？
コナンを読んでいれば、常識ですかね・・・。
ヒントは、工藤優作です。
では、次回作、ご期待を・・・。

FILE6　犯人の弟

４人でスパゲティを食べながら、
「館長は、殺人事件の犯人に間違えられたそうですね・・・・。」
司は、きっぱりと言った。館長はうなずきながら、
「はい、そうです。確か、米花ニュータワー２１パーティー殺人事件でした・・・。」
「何！？米花ニュータワー２１での殺人！」
「真犯人は、船沢竜太郎。中野昌一本部長に雇われた男だそうだ・・・。これは財木の調べだが・・・。」
「これは、もう少し、調べてみる必要があるな・・・。」
「各自、調べてみますか！では、また、明日！」
明日は、１１月１０日。正午に、喫茶店ポアロで待ち合わせ。コナンは、さっそく、阿笠博士に連絡した。
「阿笠博士か。調べてほしいことがあるんだ。」
「・・・・怪盗キッドのことかしら？」
電話の声は阿笠博士じゃなく、灰原哀だった。
「は、灰原！？どうして、ここに？」
「学校が休校でよかったわね。」
「登校は禁止で、外出も控えるように・・・。まあ、検査を受けた人は例外だが。」
「自分で調べなさいよ。たまには。」
「しゃーねーな。今から行くよ。」
そして、コナンは電話を切り、阿笠博士の家へ行った。
「えーと、どのホームページが一番のっていそうか・・・。犯罪事件・人物データベースか・・・。これにしよう・・・。」
そして、いくつか操作すると、その内容をメモし始めた。
「内藤館長失踪事件・・・。３ヶ月前から失踪していて、今も発見されていない・・・・だと！？どういうことだ！あれは館長ではな

いのか！？」

１１月１０日　正午　喫茶店ポアロ。
「いい情報仕入れてきたぜ！内藤館長はに・・・」
コナンが言いかけたとき、司も平次も
「偽者やな！」
「偽者ですね。」
と言った。この情報は全員が知っているようだ。
「それより、中野昌一についてなんだが・・・。」
と司が言うと、一枚の資料を出した。
「これは、国立俊明からもらった資料なんだが・・・、読むぞ。」
「中野昌一。５２歳。４８歳で警視監になり、現在本部長。ただ、裏には陰謀説があり、それが本当かどうかはまた分からない。ただ、米花ニュータワー２１殺人事件での犯人、船沢竜一郎と何らかの関わりがあったとされる。さらに、米花ニュータワー２１のパーティーに呼ばれたにもかかわらず、参加しなかったり、米花ニュータワー２１の信用を低下させるような書き込みをしたという噂があり、やはり、米花ニュータワー２１を嫌っていると考えられる。その理由は分からないが、米花ニュータワー２１に会社をかまえる社員たちは、たまに探偵を雇い、中野を尾行させると言う。」
その時、ポアロの榎本梓が尋ねてきた。
「あのー、その中野昌一さんの友人が私の友人にいるんですけど・・・。」
３人の目の色が一気に変わった。そして、
「で、その人の名前と住所は？」
「ご協力お願いします！」
「名前と住所、教えてくれんか？」

と勢いよく3人は頼むので、梓は少し、戸惑っていたけど、ちゃんと、教えてくれた。
「船沢竜二郎さん。杯戸町2丁目の。」
「何!?船沢!?」
「確か、船沢には弟がいるとか・・・。」
「まあ、とりあえず行きましょう。」
「ありがとな、姉ちゃん!」
そして、3人はポアロを去っていった。電話で誰かを呼んで、車に乗った。
「環、杯戸町2丁目の船沢さんのところへ行ってくれ。」
「で、誰?ガールフレンドとか?」
「いやいや、と、とんでもない!ただの幼なじみですよ!」
と司はコナンの質問にあわてながら、答えた。

そして、車は杯戸町2丁目へ・・・・。

ＦＩＬＥ６　犯人の弟（後書き）

そういや、白馬探、登場させてませんね・・・。
今度、登場させよ・・・。

それとＦＩＬＥ５の答え、間違っていたら、ぜひ報告してください。
お願いします。

FILE7　テープゲット！

そして、ついに到着した。杯戸町３丁目、船沢の家に。
「ここが、船沢の家か・・・・。なかなかいい家だな・・・・。」
その家は、２階建て、庭もかなり広く、かなり高そうな家だった。
「すみません、船沢竜二郎さんですね。兄について聞きたいのですが・・・・。」
「はい、分かりました。探偵さん。ご協力いたしましょう。」
そして、家の中へ連れて行った・・・・。
その時、
「服部君とコナン君！？」
と声が聞こえた。３人が振り返ると、蘭と小五郎、探がいた。
話を聞くと、たまたま、ここに来たらしい。
捜査ではないから、あの暗号も犯行予告状も分かっていないだろう。
ただ、白馬探なら分かっているかもしれない。
「犯行時刻は、１１月１３日　午後１１時８分に杯戸新世紀ビルでしたね。まだまだ先のことです。」
杯戸新世紀ビルか米花ニュータワー２１かは分からないが、探は杯戸新世紀ビルと推理したらしい。平次、コナン、司とは逆の推理だった。

とりあえず、話を聞くことにした。兄のことを。
「その事件で米花ニュータワー２１の悪い噂がたったようです。もちろん、今でもそんなことはあります・・・・。たとえば、『あの館長、犯罪者だ』とか・・・・。私はそうは思えません。それに比べて、杯戸新世紀ビルの人気は急上昇しました。アイツがでてくる前は。」
「あいつ？」
「あいつというより、あの人ですね。偶然、通ったその人が事件を解決したんです。」

「工藤優作さんですね。」
「はい、そうです。彼の推理はすばらしく、つじつまが合い、疑問も解決する推理でした。」
どうやら、真犯人を暴き出した人物は、工藤優作らしい。これは、犯罪データベースにもそう記載されていたから、間違いないだろう。
「で、問題はその取調べのときです。これがそのときのテープです。」
と、言って、竜二郎は、カセットテープを取り出した。
「なぜ、こんなものを・・・。」
「十和剣刑事に頼んで、もらってきました。」
「では、聞かせてもらいます。」
「あっ、これいいですよ。私にはもういらないものですから。」
「ありがとうございます。では、行くぞ！毛利探偵事務所へ！」
その言葉を聞いて、竜二郎は、
「もうり・・・・。あの名探偵なんですか！あなたは！」
といった。司は首を振りながら、
「違います。まあ、探偵ということは間違いないですが。南井司です。」
「僕も探偵なんだ。江戸川コナンだよ。よろしく。」
わざとらしい笑顔とわざとらしい自己紹介をコナンはした。
「で、こちらが、服部平次君。関西では有名の・・・。」
「離島のホームズに関西の名探偵に少年探偵とは・・・・。すごい組み合わせですな。」
コナンは2度目の少年探偵扱いに少し不機嫌のようだ。
そして、お礼を言うと、3人は、車に乗った。
「環、次は、毛利探偵事務所へ・・・。」
「免許持っているなら、運転したら。私は帰るわ。」
「免許・・・免許と・・・、あった。」
「何だ、免許持っていたのか。」

「でも、車を持っていなくて・・・・。」

司の運転はかなり上手だった。これで車を持っていないというのは、もったいないくらい。

毛利探偵事務所に着くと、さっそく、もらったテープを聞いた。

その時、驚くべき言葉が聞こえたのだ。

FILE8　犯罪組織

「テープ再生しますね・・・。」
そういうと、司は再生ボタンを押した・・・。

「あいつ・・・、うそつきやがって・・・。」
「あいつというのは？」
「な・・・、内藤裕樹のことだよ！なーにが「シェリング・フォード・コイン」だよ！」
「シェリング・ホード・コイン？」
「イギリスのゆうめ・・・」
「イギリスなんかじゃねえ！あれは日本製だ！」
「何！？」
「ああ！オレの友人がそう言っていたのさ！」
「だから、犯行をしたのか・・・。」
「それもあるけど、大きな理由はあんただよ！」
「は？」
「中野昌一に頼まれたんだ！２億円もらって・・・。あいつは悪魔だ！悪魔だ！」
「じゃあ、なぜ、そんなやつに従ったのですか？」
「決まってるだろ！殺される！死の制裁を受けるんだよ！目白が殺された事件もあいつの仕業
！死ぬのが怖いんだ！」

そして、停止ボタンを押した後、話し合った。
「内藤裕樹って、館長のこと・・・？」
「いいや、館長の父だ！」
「死の制裁・・・。恐ろしい組織ができあがっていたということか・

・・・。」
「ちょっと待って・・・・。」
と司は言うと、パソコンを操作し始めた。そして、その内容をみんなに見せた。
「これが、その組織のデータだ。構成員は２００人以上か・・・・。これまでに犯した犯罪は５００件以上。リーダーは船沢竜一郎の話から中野昌一本部長。」
「ビンゴだな！」
「何や・・・・。訳、分からんようになってもうた・・・・。」
「整理してみよう・・・・。」
「まず、このコインは日本製で珍しいものではない。そして、犯罪組織があった。」
「ちょー待て！その事件の被害者って誰なんや？」
「内藤裕樹・・・・・。」
「な、何！？」
「組織と内藤裕樹・・・・・。探ってみる必要があるな・・・・。」

ＦＩＬＥ８　犯罪組織（後書き）

せりふばっかですみません・・・。
もっと、気合入れたいと思います！！

FILE9　成功させる・・・？

「探るってどこへ行けばいいのか分からないな・・・。」
「決まっているやろ。館長本人に・・・」
「では、行きましょう！」
平次の話を無視して、出かけていく2人。
平次もあわてて合流した。
「毛利のおっちゃんは解けたんか？あの暗号？」
「それなら、白馬君が解けたと・・・。」
「違うのは参上する場所だな・・・。」
「警察もそっちの方向へ行っているようだ・・・。」
「・・・・・何！？」
コナンが司の言葉を聞いて、びっくりした。
「それは確かな情報だ。」
「まずいぞ！キッドが大失敗で終わってしまう。なんとしても、キッドの作戦を成功させなければ！」
「成功だと！？」
「だったら、捜査2課の大平警部に連絡して、一部の人間をこっちに寄せるようにします。」
「おめー、すごいな・・・。」
司の行動にコナンも感心したようだ。
ただ、いまいち分からないのは平次だった。どうして、作戦を成功させようとするのかが・・・。

―30分後―

「テレビ局も杯戸新世紀ビルと米花ニュータワー21、どちらにも

予告時刻に行くとのことです！」
「よっしゃあ！」
コナンと司の喜びは尋常じゃないものだった・・・。
平次はよく分からない顔をしていたが・・・。
「もう、調べるのは各自にしましょう。集合もなしに。次、会うのは、犯行時刻１時間前に！」
といって、解散した。
「館長への話は各自ということで・・・。」

３人とも別の方向へ歩いていった・・・。
どこへ行くのかはお互い分からない・・・。

「探偵くん・・・、分かってくれているようだ・・・。真の名探偵だよ・・・。」

コナンにはそんな声が聞こえた気がした・・・。

FILE10　あと15分・・・

―3日後―

「よっしゃ！米花ニュータワー21にたくさん人が集まっているぜ・・・。」

「ああ、成功だな。これは。」

米花ニュータワー21の中にはいろんなお店がはいり、今か今かと犯行時刻を待っている。

館長も微笑みながら。平次には、この微笑がよく分からなかったが・・・。

「ひとつ、仕掛けをしとこうか。」

「そうだな。」

2人は相談して、米花ニュータワー21の中へ入って行った。

平次は取り残されてしまったけど。

「コナン君！早く、行くわよ！」

入ろうとしたコナンを蘭が呼び出した。

「え？どこへ？」

「バーカ、杯戸新世紀ビルに決まってるだろ。バカな連中だ。ハズレの場所だというのに・・・。」

「僕はここにいるよ。平次兄ちゃんと司兄ちゃんと一緒に。」

「はい、自分はここだと思うので。」（米花ニュータワー21）

「そう・・・。じゃ、頑張ってね！」

蘭と小五郎は去っていった。

「中森警部も茶木警視も杯戸新世紀ビルに行っているよ・・・。」

「で、仕掛けをしとかないと・・・・。」
「ああ、いけっねー。」

あわてて、２人は米花ニュータワー２１へ入って行った。

そして、１０分くらいして戻ってきた。
「何の仕掛けや？」
「あとで・・・・。」
「工藤、館長は何で微笑んでるんや？キッドが来て盗むってゆーてんのに。」
「バーロ、服部も気付いているだろ？」
「は？どういうことや？」

平次はまだ分からないという顔をしている。そして、考え始めた

「キッド！」「キッド！」

キッドコールがうるさいほど、続いてる。
犯行時刻まであと１５分だというのに・・・・。

３人はその理由がなんとなく、分かった気がした。

FILE10　あと15分・・・（後書き）

ついに、最終回が近くなってきました！
最後まで、読んでください！

FILE11　もう一つの狙い

ついに、カウントダウンが始まった・・・。

「あと10秒！」

5・・・4・・・・・3・・・・・2・・・・・1・・・・・

「お会いできて、光栄です。みなさん。月光に浴びられ参上してまいりました。」

「キッド！」「キッド！」

キッドコールが続く。

「ただ、警備が厳しすぎて、入ることはできません。また、いつかお会いしましょう。残念ですが・・・。ただ、諦めませんよ！」

ボン！

キッドは跡形もなく、空に消えた・・・・。

「こちら、山口です！キッドの犯行は失敗したようです！」

その放送を見て、コナンはつぶやいた・・・。

「いいや・・・、失敗じゃないぜ・・・・。キッドのおかげで、米花ニュータワー21がにぎやかになったからな・・・。キッドの目的はそれだったんだぜ・・・。館長もキッドの変装だよ・・・。」

そして、3人は屋上へ向かった。
そこには、キッドが立っていた。

「探偵君、信じていたよ。君ならやれると・・・。」

「どうして、こんなことをしたんだ?」

「どうしてだって?それはな・・・・、かわいそうだったからさ。その館長が。」

「館長が失踪したのも、それが原因だったんだ・・・。まあ、失踪じゃなくて、自殺未遂なんだけどな・・・。」

その時、館長が階段を上がって来て・・・、

「怪盗キッドさん・・・・・、ありがとうございました・・・・・！」

と言い、泣き崩れた。こんなにぎやかになるとは思わなかったらしい。

「その悪い噂がうそだということは証明されました・・・。」

司の一言がさらにうれしかったらしい・・・。

「キッド・・・、コインを偽者とすりかえたろ？おまえの手にあるのは、本物なんだ。」

「ああ・・・、あれは珍しくない普通のコインだからな・・・。」

「パスタも・・・、１４１２がヒントとするためだろ・・・。」

「怪盗１４１２号・・・。１４１２を変形させると・・・、ＫＩＤでキッドだからな・・・。」

「信じていたよ・・・。探偵君・・・。キミならここへみんなを呼び出せると思っていた・・・。」

「今回は捕まえる気はねーが、次は容赦しねーからな！」

「ハハハ・・・、待ってるよ・・・・。」

そして、この後も米花ニュータワー２１は繁盛していったとさ・・・・。

FILE11　もう一つの狙い（後書き）

最後まで、読んでいただきありがとうございました！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9313e/

もう一つの狙い

2010年10月28日05時52分発行